

S7久保ゼミ(ゼミ指導教諭 久保貴志)

どんな人でも絵が上手くなる方法

2年6組30番 伏見葉南美

アブストラクト

絵の知識が全くない人でもできる簡単な方法で絵を上手く描く方法があるのか調べた。

仮説は2つあり、1つ目は長い時間をかけて描く。2つ目は円を沢山描いてから絵を描く。

この2つの仮説の方法で絵を描いてもらい、どのような結果になるのか調べる。

はじめに

誰でも絵が絶対に上手くなる方法があったらいいなと思って調べることにしました。

1 実験、文献調査、社会調査などの仮説を証明するための根拠について記載する。

(仮説1)

長い時間をかけて描く

(仮説2)

絵を描くことが上手な人は円をきれいに描くことができると言われているので、逆に円を綺麗に描くことができれば画力も上がる。

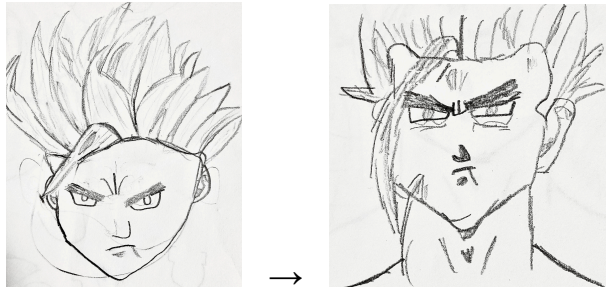
(実験方法)

何もせず書いた最初の状態と仮説の方法で描いた絵がどのくらい変化するか調べる。描くものは比べやすいように毎回同じ絵を描いてもらう。

何度も同じ絵を描いている慣れで上手くなっているだけの可能性もある為、最初に2週間同じ絵を書き続けてもらいその成長と仮説の方法で描いた絵の成長度合いを比較する。

協力)小学五年生

2 結果。上記から



1日1枚5分ほど時間をかけて2週間書き続けた場合の成長。

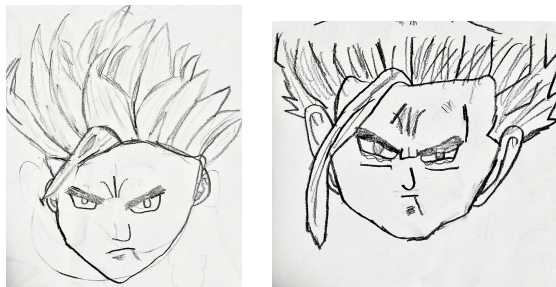
これを基準にして次の仮説の結果と比較していく。

(仮説1)長い時間をかけて書く



今までは5分程度で描いていた絵を30分と、時間を決めて描いた。普通に描く時よりも描き込みが多く丁寧で、上手に見える。

(仮説2)円を描く練習をする



20ページいっぱい円を沢山描いてから描いた。普通に書いている時とあまり変化がみられなかった。

3 考察。上記の結果としてどのような考察をしたかをまとめる。

仮説1では最初と比べると大きく変化しているように見えた理由として、こちら側が描く時間を指定することにより、描き手は余った時間で自分で足りない部分を見つけ、影やシワ、背景など細かい所まで描き込む事ができたからだと考える。つまり今まではまだまだ描き足りない部分があるにも関わらず、自ら終わらせていたということである。

4 まとめと結論。

私が今回の仮説を立てる時に考えたのは絵が上手い人の特徴だったが、それは間違いであり注目すべきなのは絵が下手な人の特徴だったのかもしれないと思った。仮説2で大きな変化が見られなかったのはそのせいで、絵が上手い人が円を綺麗に描けるのは今まで沢山練習してきた時の副産物であり、円を綺麗に描けたとしてもそれは直接的な画力の向上につながるわけではない。

5 課題。

仮説は全体的に見直す必要がある。今回はサンプルが余りにも少なかったので、次回は人数と期間を増やしてやりたい。

6 謝辞。

本研究を進めるにあたって協力してくれた私の弟には心より感謝します。